

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	18	学校名	静岡県立沼津東高等学校	校長名	小林 浩明
------	----	-----	-------------	-----	-------

1 スクールミッション

静岡県東部地区の伝統的拠点校として、自治の精神を重んじて、生徒の主体的な学びを支援し、高い志の実現と社会の発展のために率先して行動する人の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) グラデュエーション・ポリシー【育てたい資質・能力】沼東GP

学力の三本柱	育てたい資質・能力	育てたい資質・能力の概要
主体性・多様性・学びに向かう力・人間性	①自己肯定力	自分の良さと課題を客観的に把握する
	②利他・共生力	他者を思いやり、他者や集団に貢献しようとする
	③関心・知的好奇心	科学的事柄・世界や地域で起こっていることに関心を持つ
	④挑戦・行動力	課題に挑み、粘り強く最後まであきらめずに遂行する
	⑤協働・巻き込む力	他者に働きかけ巻き込む・まとめる
知識・技能	⑥知識・技能	教科・科目等で身に付ける知識・技能
思考力・判断力・表現力等	⑦目標設定力	目標を設定し、達成に向けたプロセスを考える
	⑧課題発見・分析力	現状を分析し、課題を明らかにする
	⑨思考力	証拠に基づいて論理的に分析して考える（批判的思考力・科学的思考力）
	⑩表現・発信力	自分の意見を分かりやすく表現し伝える
	⑪創造力	新しい価値を生み出す

(3) カリキュラム・ポリシー【教育課程編成の方針】

ア 文理融合型の幅広い学習

広い視野で物事を考え行動する人材を育成するために、様々な教科を幅広く学習する教育課程を設定します。

イ 教科外活動を含めた横断的な取組

教科・科目、総合的な探究の時間、特別活動、部活動など、すべての教育活動において、育てたい資質・能力の育成を意識した取組を行います。

ウ 理数学力、英語力、探究的な学び

地球規模の課題や、医療人材の育成等の地域課題の解決に行動する人材を育成するため、理数、英語、探究的な学びを重視します。

(4) アドミッション・ポリシー【入学生徒受け入れ方針】

ア 高い志を持って、主体的に粘り強く学び続ける意欲のある生徒を求めます。

イ 高校生活において、部活動や生徒会活動、校外の活動など、授業以外の活動にも積極的に取り組む意欲のある生徒を求めます。

ウ 科学的な事柄や、医療人材不足などの現代社会の課題に関心を持ち、それら課題の解決にむけて率先して行動する意欲のある生徒を求めます。

3 スクール・ポリシー具現化の柱

(1) 授業改善、生徒の学力向上

(2) 学習及び学校生活に困り感をもつ生徒への対応

(3) 総合的な探究の時間「揺籃」・スタディツアーの充実

(4) 生徒主体による学校生活改善（行事等への関与、人権意識）

(5) DX（静岡型LMS、採点支援システム等）による業務効率化

(6) カリキュラム・マネジメントに基づく教育活動の検討、外部人材の活用による教職員の負担軽減

(7) 定員確保に向けた地域への情報発信

(8) 50年後にあるべき沼津東高校の姿の具体的検討（医療人材の育成等）

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	育成する力	達成方法 (取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
主体性・多様性・学びに向かう力・人間性	自己肯定力	・人権教育 ・ホームルーム活動 ・教科の授業 ・自治会活動 ・部活動 ・学校行事 ・交通指導 ・校外活動への参加 ・揺籃、理数探究 ・朝読書 ・進路指導	・自分自身に概ね満足しており、物事を肯定的に考えることが多い生徒70%以上◎ ・楽しく充実した学校生活を送っている生徒90%以上◇	◎64.7% ◇94.6%	B	○友人との付き合いや部活動に満足度が高い。 ●学習の質や量に悩んでいる生徒が多い。これらの数値を高めていく学校づくりが必要。	生徒 保健環境 相談室 部活動 教務 図書研修 進路 学年 理数
	利他・共生力		・所属する集団や社会に貢献できるよう意識して行動している生徒80%以上◎ ・いじめ件数、問題行動、交通事故・違反指導数の前年比減●	◎78.8% ◇94.1% ●いじめ認知1件増 問題行動2件増 交通事故3件増 交通違反カード263件減	B	○いじめは積極的に認知していく傾向 ●問題行動はSNS・人間関係によるものが増えた ●交通事故については12月末時点昨年度比較 ○交通違反カードについては、11月末時点と昨年度累計を比較	
	関心・知的好奇心		・授業や日常生活の中で、興味・関心を抱いて情報を集めたり、「これに取り組んでみたい」と思ったりすることが多い生徒75%以上◎ ・学習以外で活字に親しむことが多い生徒90%以上◎	◎73.8% 図書の貸出冊数は約1900冊(12月末時点) ◎85%	B	●貸出冊数は昨年度と同程度 ○自習室を含めた利用者数は増加傾向(図書研修課) ○科学講演会を2回実施(理数科)	

様式第3号

	挑戦・行動力		<ul style="list-style-type: none"> ・自分を高めるために、自ら継続的に取り組んでいることがある生徒75%以上◎ ・難関国立大・難関私大・医学科志望者数130人以上● ・地区大会を突破した部活動10以上● 	◎70.5% ●100% ●26部が地区大会突破	B	○自己採点后時点で難関大国立大志望者119名、医学科志望者21名で140名以上の生徒が志望している。 ○総体・総文祭・新人戦を含んだ数	
	協働・巻き込む力		<ul style="list-style-type: none"> ・協働場面で積極的に発言・活動して集団をまとめ、参加者全員を巻き込むよう工夫している生徒60%以上◎ 	◎55.7%	B	○沼東ゼミを通して、グループ内で共通の課題解決に向けて、進んで協力し合うことができた。(1年) ○理数探究で協力し合い研究・発表を行った。(理数科) ○グループワークやペアワークを通して自分の考えを他者へ伝える力、他者の考えを聞き、他者を理解する力を身に付けた。(地歴公民科)	
			<ul style="list-style-type: none"> ・香陵祭、スタディツアー、高原教室の満足度85%以上◇ ・友人と協働して目的を達成することができた生徒80%以上◇ ・英会話、校外の学び、ボランティア活動に参加した生徒100人以上● 	◇88.8% スタディツアー満足度100% ●延べ683人	B	○満足した生徒を増やしていく努力は必要 ○スタディツアーでのキャリアインタビュー等の活動が今後の学習や進路意識の向上につながった。(1年) ○高原教室では悪天候で、臨機応変の対応となったがクラス活動を通し、他を思いやる心を身につけ、協働し目標を達成できた。(2年)	
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の授業 ・揺籃、理数探究 ・一人一台端末活用 ・学びの基礎診断 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容が分かる生徒90%以上◇ ・一人一台端末を活用している生徒90%以上◇ ・共通テスト6教科受験率90%以上● ・難関国立大・難関私大・医学科合格者60人以上● 	◇90.2% ◇87.5% ●88.9% ●56人	A	●昨年度は85.9%だったが、今年度は88.9%となり+3%増えた。 ○一人一台端末を利用し、文章を読んだ感想や疑問点の集約、共有を効率的に行うことができた。(国語科) ○1年次生全員が、端末を活用し沼東体操の技能を向上させることができた。(保健体育科) 一人一台端末のロイロノートを使って夏休みの思い出について文章と音声の両方で提出する課題を課した。 ○Jobインタビューでは自分が書いた原稿を英文作成支援システムを使い、問題個所に気づかせブラッシュアップさせた。	教科情報処理進路学年
思考力・判断力・表現力等	目標設定力	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の授業 ・揺籃、理数探究 ・進路指導 職業を知るセミナー 大学出張講義 志望校設定等 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決や大きな目標達成のために、適切な難度の小・中目標を設定することができる生徒70%以上◎ 	◎72.3% ◇75.2%	A	○目標を持たせる・より具体化させることで反映されると思う ○沼東ゼミを通して、課題解決のための目標の設定の仕方を学習し、自分たちの設定した課題に取り組んだ。(1年) ○沼東ゼミでは、興味のある分野において自分たちで課題を設定し、研究することができた。(2年) 理数探究において段階を踏んで計画的に実験を行うことができた。(理数科) ○新体力テスト、マラソン大会等にて、個々に応じた明確な目標設定ができた。(保健体育科)	教科理数教務生徒進路学年図書研修部活動
	課題発見・分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動 ・学校行事 ・校外活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的に観察し、その良さと課題の両方を見いだすことができる生徒80%以上◎ 	◎78.4%	B	○同テーマの文章を比較し、多面的な見方を知り、自身の考えを深めることができた。(国語科) ○数学においては、課題学習に取り組んだことで、一部の生徒が課題の解決をする力を伸ばすことができた。 ○Esportsはスポーツとみなすことは妥当かどうかというディベートを行った。 ○史資料を活用したグループワークを通して多角的・多面的に事象を捉える力を醸成した。	

様式第3号

思考力		・自分の意見を適切な根拠を示しながら、順序だてて説明することができる生徒70%以上◎	◎70.3%	A	○理数探究発表会の発表後の質疑応答では、実験データをもとに論理的に受け答えをすることができた。 ○数学の授業では、「別解」を考えることで思考力を伸長させた。 情報を読み取り、考え、判断する力をより求める授業となり、情報社会に主体的に参画するための基礎的な力を養うことにつながった 実験観察を通じた考察がさらに重要視されるようになり、入試問題にも採用されるようになった。より丁寧な指導が求められる中、授業時数の不足をどの科目も感じている。(理科)	
		・聞き手を意識して話し方を工夫したり、適切な機器を用いたりして、分かりやすく説明することができる生徒70%以上◎	◎73.6%	A	○グループ活動を行い、自分たちの考察を発表する授業を行い、聞きやすい説明の仕方や見やすいスライドの作り方を学んだ。(国語科) ○理数探究発表会で研究内容をプレゼンテーションソフトを使い、限られた時間で分かりやすく発表した。 ○保健の授業内でポスターセッションを行うなど、端末を用いて自己開示ができた。 ○英語コミュニケーションでスピーチを年間5回実施した。題材としてlucky item, silly mistake など身の回りのできごとから取り上げ、積極的に話す姿勢を育てた。(1年) ○学期ごとにGoal Activityのパフォーマンステストとしてディベートや模擬インタビューなど英語でのやり取りに重点を置いた活動を取り入れた。(2年)	
		・授業や学校生活の中で、自分の世界や発想の幅が広がっている生徒80%以上◎	◎79.6%	B	○評論文で定番のテーマを網羅的に読み、普段関わりのない世界や考え方との邂逅や理解を促した。(国語科)	
創造力		・3年次1学期における第一志望校を受験した生徒60%以上● ・探究や授業成果の校内発表会実施、校外発表会等への参加● ・教科、科学、図書、関係部活、探究・課題研究等入賞●	●44.3% 県青少年読書感想文コンクール優良賞作品1名 ●地域防災訓練参加 228人		○志望校を上げた生徒が14.6%いた。進路検討会での結果を受け、担任からの助言を柔軟に受けた生徒が多数いた結果である。 ○地域での繋がりや防災意識を高めることができた。	
業務改善	・DX、外部人材活用	・月別時間外労働時間の前年比減	職員健康診断受診率100% ○月別労働時間43.6h(昨年比-7.9h)	A	○デジタル化・ペーパーレス化については、スキャン用NASの設置やデジタル個票の運用など昨年度より推進できた。	全教職員

◎学年末生徒アンケート ◇生徒対象学校生活アンケート ●データ